



歴史の野庭・里山を歩く

本郷ふじやま公園古民家歴史部会 神田 恵仁

実施日:令和4年10月12日(水)

集 合:港南台駅改札口

解 散:港南台駅

行 程: 港南台駅→港南車庫入口→迎陽トンネル→浄念寺→堅牢地神塔→港南あおぞら
→野庭三谷町公園→日野南公園→原の橋→港南台西公園→港南台駅

迎陽トンネル

元は、ここを「上野庭口」と称したが、ここでの往来は危険であり、また降雨時には使用不可能であったので、明治41年県道の拡張工事に合わせて、村民と野庭炭鉱の亜炭業者が協力して自然石にトンネルを掘り、迎陽トンネルと名付けた。現在のように近代的な改修工事が完成したのは、昭和53年である。

迎陽トンネルの武蔵側入り口付近の湧き水は有名であったが、近年水も少なくなりその跡だけが枯れ果てた姿を草むらに残しているのも哀れである。日野方面へ坂を降ると、「鎌倉街道」バス停藤が沢に近い角に、「のば口」と記された道標を見ることができる。

【こうなん道ばたの風土記】より

浄念寺の咳止め玄入坊

むかしなあ、上野庭の島田という所に、一人の旅の僧が訪れたそう。その僧の名前はな、玄入坊というたそう。玄入坊がこの村を歩いていると、病人が多いことに気がついたんだ。昔の山深い里ではな、くらは貧しくてな、天候が悪くて農作物がとれないとな、たちまち飢えに苦しんだんだとき。病気になっても、お医者にかかれない貧乏な暮らしに、若者は近くの戸塚あたりに働きに出て、村には年寄り子どもばかりになってしまったんだ。「コン、コン」と、ひっきりなしに咳をしながら苦しむ農民を見て、玄入坊は何にもできない自分の力の無さをなげき悲しんだ。玄入坊は、人間はどんなに苦しくても、明日への希望と元気な体があれば、生きぬくことができるんだ。けどもな、この

村には、その元になる希望と健康が失われているのじゃよ。玄入坊自身も、僧として旅の終わりを予感したのかも知れない。そこで村人たちを呼び集めてな、自分の決意を述べて、大きな穴を掘ってもらったとき。そしてな、その中に、自ら生き埋めになろうと入って行ったんだ。そして村人にな、次のように頼んだんだ。「私が穴の中に入ったら、土の中からお経を読む声のある間は、この竹の筒を通して一日三回、水だけを流しこんでもらいたい。そして、その経を読む声が絶えた時、私の願いは聞き届けられ、あなたたちの村から、咳をする人たちの苦しみがなくなるだろう」と言い残して、土の中に消えて行ったんだ。村人は、最初は、見ず知らずの旅の僧のことばを、信じなかったんじゃが、命をかけてまでの不思議なふるまいと、玄入坊の言ったとおりの奇跡にびっくりしたんだ。そしてな、玄入坊にたいしてな、感謝と悲しみをこめて、塚を築いてな、その上に榊の木と、石の祠を建てて、後の世まで玄入坊の徳をたたえて、おまつりしたそう。そして、今でも咳に苦しむ人たちの、おまいりが続いているそう。

【港南区の民話集】から抜粋



第154回 古民家歴史探訪(栄区周辺散策)

港南区編 歴史の野庭・里山を歩く 2022年10月12日実施



浄土宗浄念寺



咳止め玄入坊の祠



全行程6.6km

1	港南台駅	1300m
2	藤ヶ沢	500m
3	迎陽トンネル	500m
4	浄念	1500m
5	あおぞ	800m
6	日野南公園	900m
7	原の	700m
8	西公園	400m
9	港南台駅	

迎陽ずいどう
「さがみ」と「むさし」
「港南歴史カルタ」
「ここにちは」

亜炭掘る
炭鋌夫いた
野庭の村
【港南歴史カルタ】